

地域支援だより

平成29年6月16日  
第73号

# きらりNet

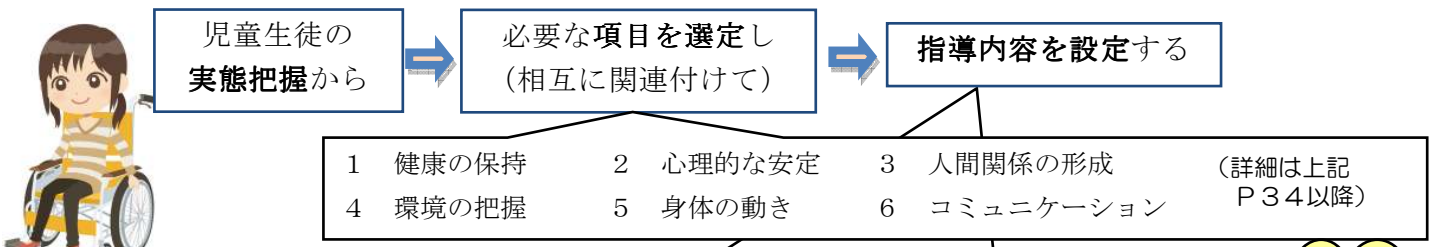
秋田県立秋田きらり支援学校  
地域支援部

## 「自立活動の視点」を取り入れた授業づくりについて

本校で、昨年度重点として取り組んだ「自立活動の視点を取り入れた授業づくり」にむけて、職員が研修した実践内容について紹介します。

### 1. 『学習指導要領解説～自立活動編』 P34～「自立活動の内容」の確認

自立活動とは→「困っていることを改善・克服していこうとする視点を基にした学習活動」



- 本校の自立活動について～時間における指導の年間目標の例～**
- ・SRCウォーカーで、手を前に出した姿勢で10m程度、止まらずに歩く。
  - ・指先や手首を使ってボタンやファスナーを外す。
  - ・吸引等の大切さが分かり、安全な姿勢で医療的ケアを受ける。
  - ・よい関係を築く会話の方法を知り、実践する。
  - ・水や牛乳を飲むときは、口を閉じて唇でストローをくわえて飲む。等

指導に当たっては「時間における指導」と「学校教育活動全般を通じた指導」との関連付けが大切です！

### 2. 時間における指導の授業改善～参観ポイントを示したシートでの 授業提示・意見交換

〈題材名(単元名)〉「体操をしよう」「ビーズを使って作ろう」	〈場所〉 中1-1
〈本時の目標〉 ①関節や筋を伸ばす運動をする。 ②手元をよく見てひもにビーズを通す。	〈区分・項目〉5 身体の動き(4) 4 環境の把握(2)
〈手立て〉 ①集中できるようにタイマーを使う。 ②指先で持ちやすいひもを準備し、見通しをもって行えるように決まった数のビーズを置く。	区分・項目の選定により本時の指導内容を整理
〈参観ポイント〉 生徒が集中して活動を行うための支援について。	
参観者より(授業者のオーダーに沿った建設的な意見を記入。)	
① 指先を器用に使ってビーズ通しにしっかり取り組んでいた。落ちたビーズを自分で拾っており、生活に生きてくと思ふ。	
② 鉛筆を持ち点・点・を結ぶ等の活動は既に取り組んでいるのかな? 前に提示し、左右に動かした物を注視する...等、注視するためのトレーニングもあつた。	あんぱんてつばと目も ありがとうございます

質問に対する授業者からの回答: 団語の方でやっています。

参観者からのアイディアに授業者からの感謝コメント

子どもの実態を的確に捉え、「何を目標とするか」「優先順位の高い目標は何か」を明確にしましょう。その際、本人や保護者の「どのように成長したいのか」「どのように育ててほしいのか」の意見が、目標設定の大事な要素になるという視点もお忘れなく！！

また、「本人の全体像」を常に把握しておくことも大切です。(文責：菊地真理)

# きらりの実践 その① 小学部 自立活動

教科を主とした学習グループ

(小学部6年生：昨年)の実践

キーワード：自己決定

## 「カニューレのふたの装用の仕方について自分で決まりを考え、実行する」

(週1時間の自立活動)

6年生の男子児童は、気管切開しカニューレを装着していますが、口呼吸に移行するため、気切部を塞ぐふたの装用を開始しました。家庭ではすでに経験していましたが、校内でふたを付けて過ごすことは初めてです。

【ねらい】「ふたを装用するときの約束を覚え、安全に装用する」「ふたを装用したときの過ごし方を振り返り、今後の生活に生かす」

T「もし、息が苦しくなったらどうすればいいかな」



T「ふたが取れて床に落ちたらどうしますか」



児童「今までの生活を振り返ると…。こんな時はこうすればいいのかな…。約束事を考えるぞ！」

- ふたをつける
  - 口で息をする練習
  - カニューレをとる練習
- お話するときは、息がもれない方が話しやすい。
- 練習
  - 朝、車の中でふたをつける 10~15分
  - 学校で少しづつふたをつける。

カニューレのふたの約束

① 具合が悪いときや、苦しいときは無理をしない。

② ふたがとれて床に落ちたらかんごしさんに洗ってもらう。



気切部を塞ぐ目的やよさを確認したり、練習の計画を立てたりしました。

児童が考えた約束事をいつでも意識できるよう教室に掲示しました。

発表する場面では、気切部から息が漏れることが気にならなくなり、話しやすくなりました。

また、学期の終わりには、児童が自分の行動を振り返ったり、たくさん運動した後は、教師と一緒に体調を確認したりすることで、児童が自ら安全面や衛生面に気を付けて過ごす意識が高まりました。(文責：中野あかね)

## 教育専門監のコーナー よりよく生きていこうとする気持ちを育む

本校では、キャリア教育と自立活動を視点とした授業づくりに取り組んでいます。

キャリア教育の視点を授業に生かすポイントは次の3つ。「どんな人に育てたいのか」「いつまでに何ができるようになるか」「今、この時間に教えるべきことは何か」。

小学部の自立活動の実践は児童の自立と社会参加を目標に「自主的・自律的に行動すること」「自己調整的であること」「自分は何かができる」という自己効力感を実感していること」「自分についての知識を使って行動すること」というセルフディターミネーション(自己決定)の4つの特徴(Wehmeyer,1999)を大切にしながら、自分のQOLに関して、自分の意思で選択、決定する力を高めるセルフケアの学習です。

視覚化だけでなく児童の言語化を伴う「見える化」や「なるほど、そうだったんだ」という実感を伴う「分かる化」、そして統合されたり融合されたりする感覚である「一体化」というユニバーサルデザインを視点とした授業により、児童の自己決定力を高める授業づくりを進めています。(文責：二階堂悟)

## 自立活動研修会の

### お知らせ

ご参加お待ち

しております

日時：8月4日(金)

10:00~11:00

(受付9:30~)

場所：秋田総合支援エリア大会議室

講師：秋田県立医療療育センター

言語聴覚士 川上公代 氏

内容「コミュニケーション能力を支えるもの—臨床経験から—」

申し込み締め切り：7/21(金)

HPから申込用紙をダウンロードし、FAXにてお申し込みください。

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

